



Rollei 35

Made in Germany

取扱説明書

はじめに

1966年、ローライは2つのまったく新しい製品を発表しました。

1つは6x6cm判一眼レフのRolleiflex SL66です。そしてもう一つがローライ初の35mm判カメラRollei35です。このカメラは世界で最も小型のフルフレーム35mmカメラでタバコの箱とほぼ同じ大きさでした。

そしてこの小さなボディには光学的、機械的に高度な技術が注ぎ込まれ、堅牢な金属製のボディに包まれた魅力的な高精度カメラが誕生しました。

これまでも多くの写真ファンがこのカメラを使って撮影し、この小さなカメラの素晴らしさを表現してきました。この小型で軽量の携帯性に優れたカメラは、プロカメラマンのセカンドカメラとして理想的とされ、多くのカメラマンに愛され続けてきました。半世紀近くを経た現在、このユニークなカメラは世界中で愛され、注目を集めています。

Rollei35は真に写真撮影のプロセスを楽しむすべてのカメラマンのためにあります。個性的で美しいボディで蘇った新しいRollei35をお楽しみください。

目次

はじめに	2	露出計	9
仕様	3	ピント合わせ	10
取扱い上のご注意	3	撮影する	10
各部の名称	4	撮影後	10
ストラップの取付け方	6	フィルムの取り出し	11
裏蓋の開閉	6	フラッシュ撮影	11
バッテリーの挿入	6	撮影のヒント	
フィルムの装填	7	1. フィルターを使った撮影	12
1コマ目までフィルムを送る	7	2. 最適なシャッター速度の選択	12
フィルム感度の設定	8	3. 絞り優先設定	13
フィルム種類別指示ダイヤル	8	4. 被写界深度	13
フィルムタブホルダー	8	5. 適正露出	14
絞りの設定	9	6. フィルム給送	14
シャッター速度の設定	9	7. バッテリーの交換	14
		トラブルシューティング	15

仕様

形式	35mm判レンジファインダーコンパクトカメラ
シャッター	リーフシャッター
シャッター速度範囲	1/500～1/2秒, B
レンズ	ローライ S- アポゴン 40mmF2.8 HFT
レンズ構成	5枚構成
ピント合わせ	目測
ファインダー	レンジファインダー
測光方式	連動追針式
バッテリー	LR9 625 タイプ
重量	370g
外形寸法	100(W)x70(D)x46(H)mm (レンズ収納時 35(D)mm)
原産国	ドイツ

取扱い上のご注意

この取扱説明書に記載の内容をよくお読みいただき、正しくお使いください。
本製品は精密機器です。水没・落下、乱暴な扱いによる破損にご注意いただき、水気や湿気のある場所や極端な高温・低温下での使用／保管は避けてください。尚、これらの取扱方法や注意事項が守られず製品に故障が生じた場合、保証は適用されません。

電池に関して

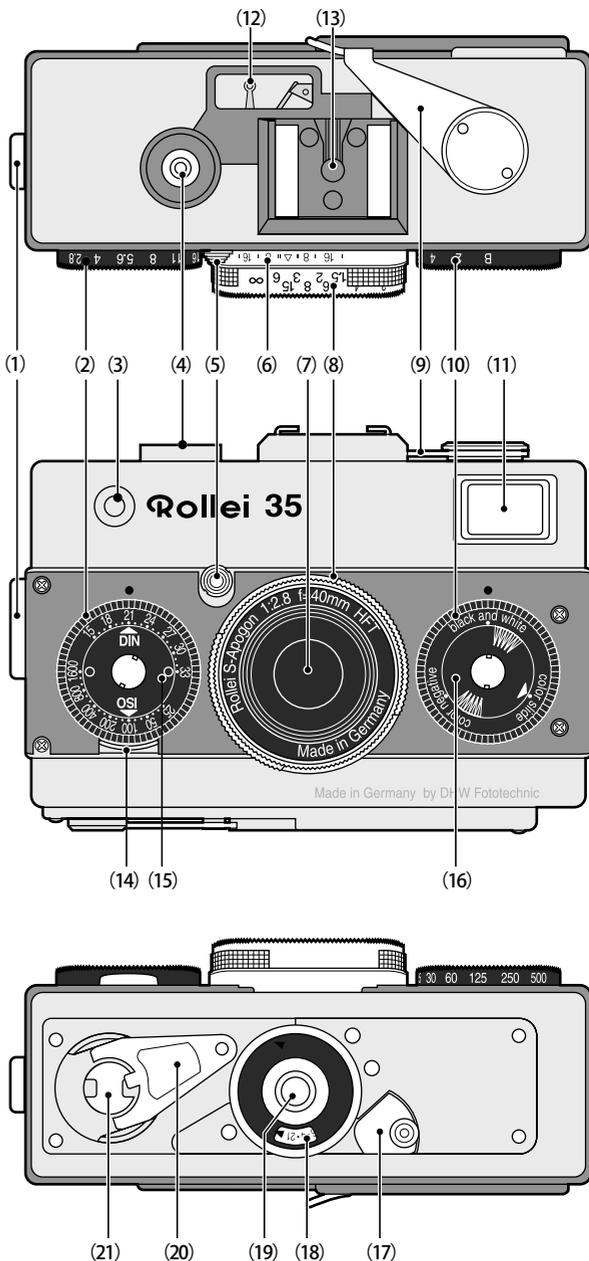
- ※このカメラの取扱説明書中で指定された電池以外は使用しないで下さい。電池の破裂、液漏れにより、火災、怪我の原因となります。
- ※電池を火の中に入れてたり、ショート、分解、加熱や、充電しないで下さい。爆発して大怪我の危険があります。
- ※取り外した電池は、お子様の手の届かない場所へ置いて下さい。万一、飲み込んだ場合、胃、腸などを損傷する恐れがありますので、ただちに医師と相談してください。
- ※カメラに電池を入れる際、「+」「-」の接点を正しく入れてください。電池の破裂・液漏れにより火災・怪我の原因となります。

安全に関して

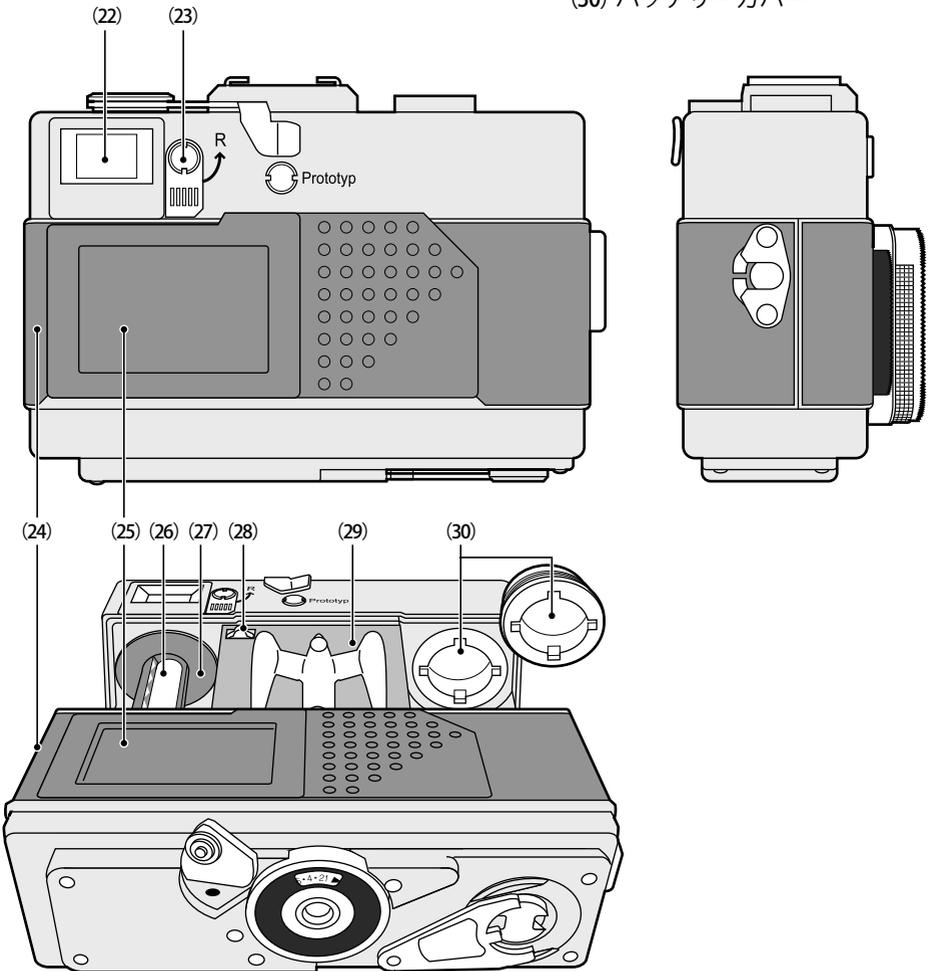
- ※カメラ内部に水が入った場合や、破損した場合、カメラは絶対に分解したり、内部に手を触れずに速やかに弊社までご連絡ください。
- ※カメラで直接、太陽や強い光源を見ないでください。目を傷める危険性があります。
- ※自動車などを運転中、絶対にカメラを操作しないでください。交通事故の原因となります。
- ※カメラを高温状態の車の中に放置したり、熱いものの側に放置しないでください。カメラが高温となり火傷や故障の原因となります。
- ※カメラは乳幼児の手の届かない、湿気や埃のない場所で保管してください。

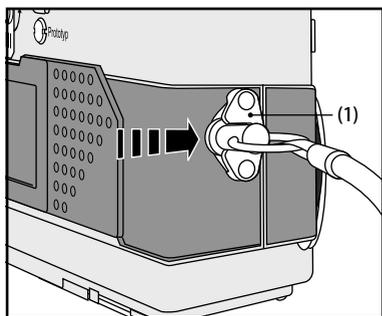
各部の名称

- (1) ストラップホルダー
- (2) 絞りダイヤル
- (3) 受光素子
- (4) シャッターボタン
(ケーブルレリーズソケット付)
- (5) レンズロック解除ボタン
- (6) 被写界深度スケール
- (7) レンズ
- (8) フォーカシングリング
- (9) フィルム巻き上げレバー
- (10) シャッター速度設定ダイヤル
- (11) フレームファインダー(前)
- (12) 露出計
- (13) X接点付きホットシュー
- (14) 絞りダイヤル
自動ロックボタン
- (15) フィルム感度設定ダイヤル
- (16) フィルムタイプ表示ダイヤル
- (17) 裏蓋開閉ボタン
- (18) フィルムカウンター
- (19) 三脚ソケット
- (20) フィルム巻き戻しクランク
- (21) フィルム巻き戻し軸
- (22) フレームファインダー(後)
- (23) フィルム巻き戻しレバー



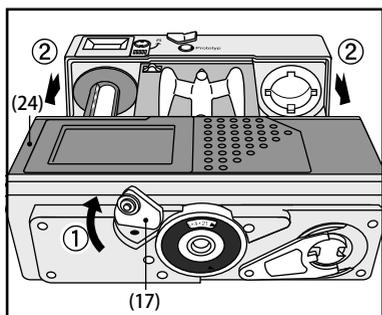
- (24) 裏蓋
- (25) フィルムタブホルダー
- (26) フィルム給送スリット
- (27) フィルム巻き上げスプール
- (28) フィルム給送スプロケット
- (29) フィルム圧板
- (30) バッテリーカバー





ストラップの取付け方

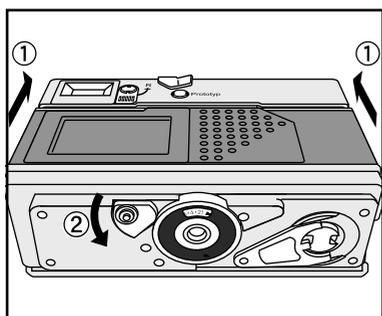
ストラップをボディ側部のストラップホルダー(1)に取付けます。ストラップ末端の金具をカメラのストラップホルダーに(カメラの背面側からレンズ側に向かって)スライドして押し込みます。取外す時は指のツメを使って板バネを押し込み、ストラップ金具をスライドして外します。



裏蓋の開閉

裏蓋の開け方

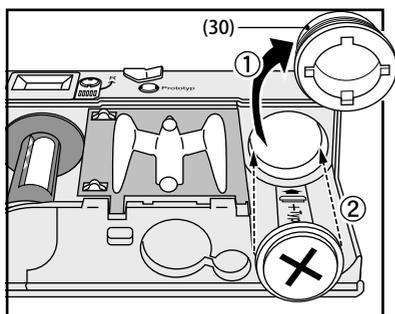
- ①裏蓋開閉ボタン(17)をスライドして、裏蓋(24)のロックを解除します。
- ②カメラ本体から下に向かって裏蓋をスライドさせて外します。



裏蓋の閉じ方

- ①カメラ本体に向かって裏蓋を真直ぐにスライドさせ、しっかり本体に噛み合わせます。
- ②裏蓋開閉ボタン(17)を元の位置に戻します。

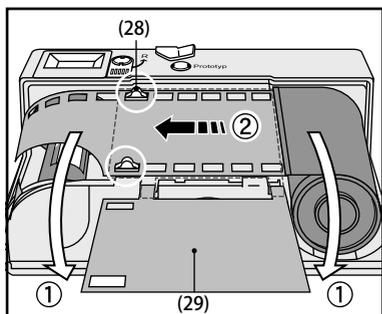
裏蓋開閉ボタンの下に赤いマークがあります。これは裏蓋を正しく装着してロックすると見えなくなります。裏蓋をロックした時赤いマークが見えるようでしたら完全にロックされていません。もう一度やり直してください。



バッテリーの挿入

裏蓋を開けます。(上記「裏蓋の開閉」参照)

- ①硬貨などを使ってバッテリーカバー(30)を回して外します。
- ②プラス(+)のマークが外から見えるように新しいバッテリーをカメラに挿入します。挿入後、バッテリーカバーを取付けて、しっかりとねじ込みます。

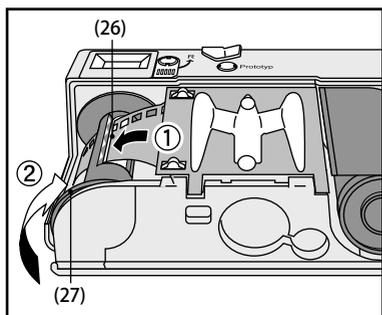


フィルムの装填

裏蓋を開けます。(P6「裏蓋の開閉」参照)

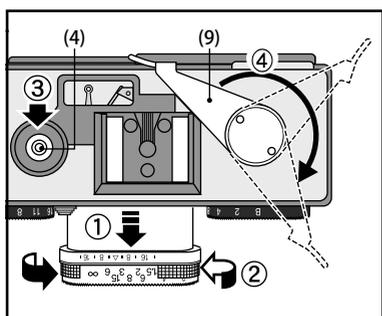
- ①フィルム圧板(29)を手前に倒します。
- ②フィルムパトローネを押し込み、フィルム先端部を引き出し、フィルム両縁の穴をそれぞれフィルム給送スプロケット(28)に確実に噛み合わせます。

フィルム圧板を元の状態に戻してフィルムを押し入れ付けます。



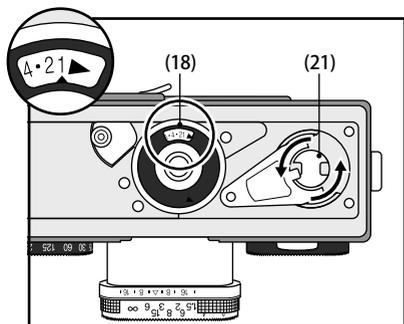
- ①フィルム先端部を完全にフィルム給送スリット(26)の中に押し込みます。
- ②フィルム巻き上げスプール(27)に巻取ります。
裏蓋を戻してロックします。

※裏蓋開閉ボタンの下の赤いマークが見える場合は、正しく裏蓋が閉じられていません。もう一度やり直してください。(P6「裏蓋の開閉」参照)



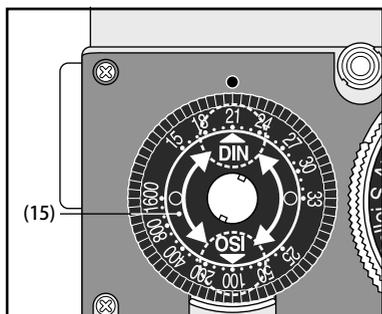
1コマ目までフィルムを送る

- ①レンズキャップを外してレンズを引出します。
- ②レンズを確実に固定されるまで右に回します。
- ③シャッターボタン(4)を押します。
- ④フィルム巻き上げレバー(9)を、止まる位置まで回します。



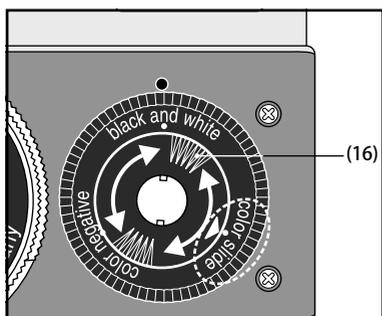
これをフィルムカウンター(18)が1コマ目を表示するまで繰り返します。

このとき、フィルムが正しく給送されているか確認するためにフィルム巻き戻し軸(21)が同時に回転していることを確認してください。



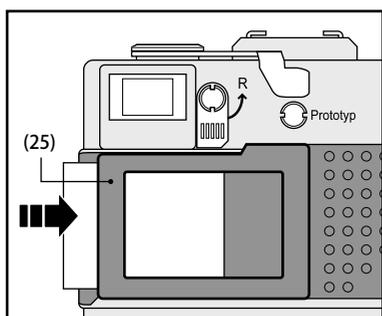
フィルム感度の設定

フィルムのISO感度に、フィルム感度設定ダイヤル (15) を合わせます。この時左右の突起を利用し、クリックの止まる位置に設定してください。意図的にオーバーまたはアンダーにする場合もフィルム感度設定ダイヤルで調整します。



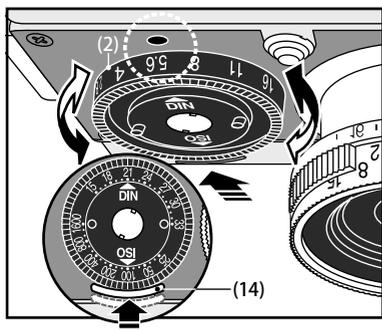
フィルム種類別指示ダイヤル

フィルムタイプ設定ダイヤル (16) を使って使用するフィルムの種類 (モノクロネガ、カラーネガ、カラーライド) を設定します。



フィルムタブホルダー

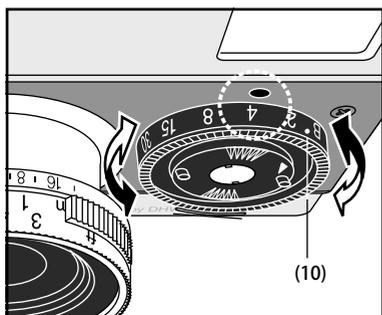
カメラに装填されたフィルムのタイプをすぐに確認できるように、フィルムの外箱のタブを切り取り、フィルムタブホルダー (25) に差込みます。



絞りの設定

絞りダイヤル自動ロックボタン (14) を押した状態で、絞りダイヤル (2) を回して指標に希望する絞り値を合わせます。

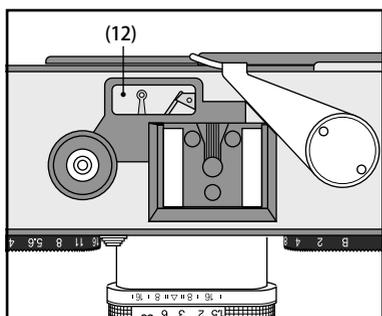
すべての設定は上部の赤い●指標から読み取ることができます。



シャッター速度の設定

シャッター速度設定ダイヤル (10) を回し、指標に希望するシャッター速度を合わせます。

設定を速やかに行うために、12ページの「2.最適なシャッター速度の選択」をご参照ください。また、長時間露光についても12ページをご覧ください。



露出計

露出は露出計 (12) の白い針が赤い範囲の外に見え始めたところから開始します。

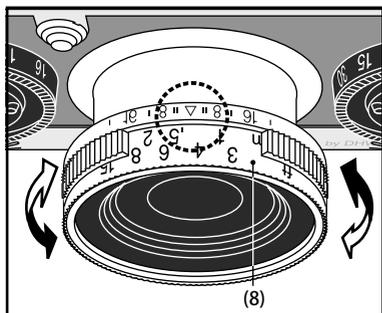
露出計が正しい測光範囲で正確に動作できるようにカメラを被写体に向けてください。

このとき、屋外撮影の場合で視野内に空が入る際には、カメラを少し下に向けて測光してください。

赤い指針の丸い部分が針の中に納まるように、絞りダイヤル(2)を回します。(必要に応じて、シャッター速度ダイヤルを (10) を回して露出時間を調整します)

これでシャッター速度および絞り値が設定されました。

※絞り値優先設定の詳細に関しては13ページの「3.絞り値優先設定」をご参照ください。

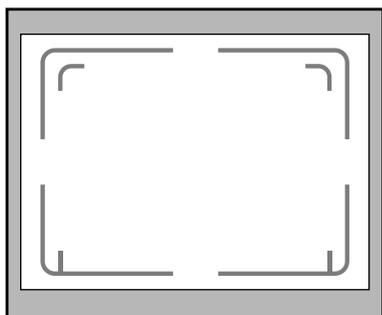


ピント合わせ

フォーカシングリング (8) を回して、設定したい距離を△に合わせます。(13ページの「4.被写界深度」をご参照ください。)

フォーカシングリングにはフィート (ft) 単位の距離も表示されています。

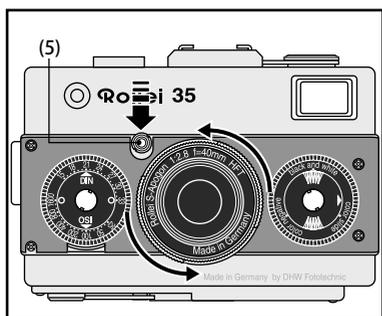
2~6mの通常のスナップショットの設定範囲は赤い字で表示されています。



撮影する

被写体にカメラを向けてファインダー内に収めます。ブライトフレームの枠内が撮影範囲です。

シャッターボタン (4) を押します。(シャッター速度が遅い場合、シャッター動作が終了するまで押し続けます) フレーム内の短い線は1.5m未満の近距離の被写体を撮影する時の視野の範囲を示しています。

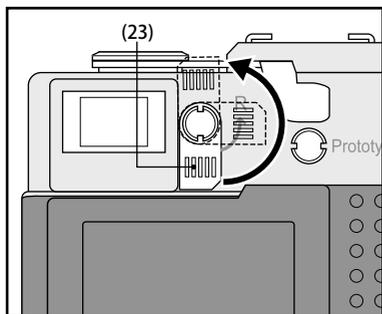


撮影後

親指でフィルム巻上げレバーを止まるまで回し、いつでも撮影できる状態にしておきます。フィルムカウンターには次のフレームを示す数字が現れます。

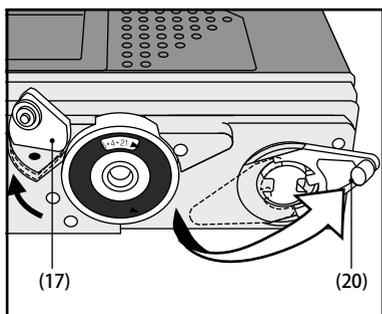
レンズロック解除ボタン (5) を押して、レンズを左に回してボディ内に押し込み、収納します。この時点でシャッターはロックされます。

※巻き上げレバーを回した状態でなければ、レンズは収納できません。



フィルムの取り出し

撮影終了後、カメラ背面のフィルム巻き戻しレバー(23)を上方向に回します。



カメラ底部のフィルム巻き戻しクランク(20)を外側に取り出し、フィルムを巻き戻す抵抗が無くなるまで矢印の方向に回します。クランクを元の位置に戻し、フィルム巻き戻しレバーを下に戻します。

裏蓋開閉ボタン(17)を外側に動かし、裏蓋(24)を外します。フィルムパトローネを取り出し、できるだけ早く現像を依頼してください。

フィルムを交換する際は直射日光下では行わないでください。少なくとも日陰を選んで行ってください。

フラッシュ撮影

X同調接点を備えたホットシューに市販のフラッシュユニットを取付けることができます。フラッシュ撮影では、カメラ本体の測光機能は使用できません。

フラッシュバルブまたはフラッシュユニットの取扱説明書をご参照の上、シャッター速度および絞り値の設定を行い、ピントを合わせます。

シャッター速度同調範囲：

●フラッシュバルブ= 1/30 秒以下の速度

※これより早いシャッター速度の場合、露出アンダーになるか、または撮影がまったく行われません。

●電子式フラッシュユニット =1/500 秒以下の任意の速度

フラッシュ撮影時のヒント

●フラッシュの照射光がガラスなどからカメラ方向に反射しないようにご注意ください。正面からの反射を避けてフラッシュユニットを向ける方向や角度を選んでください。

●フラッシュユニットを使用しないときは必ずスイッチを切っておきます。

●フラッシュユニットのスイッチを入れた後は、撮影前に充電完了ランプが点灯するのを待ちます。45 秒以上たっても充電完了ランプが点灯しないときはバッテリーの電圧が不足していますのでバッテリーを交換してください。長時間にわたって使用しないときはバッテリーを外しておくことをお勧めします。

撮影のヒント

1. フィルターを使った撮影

ねじ込み式のフィルターを装着することができます。

フィルターを使う際はほとんどの場合で露出補正が必要となります。補正値はフィルターのマウント上に記載されています。これは補正すべき絞り値、またはシャッター速度をステップ数で表示しています。

例えば適正絞り値が F11 で、フィルター補正値が「-1.5」の場合、F8 ～ F5.6 の間の絞り値を設定します。シャッター速度で補正する場合はシャッター速度設定ダイヤルを使って、絞り値に対応するだけ補正します。絞り値のみ、半段の設定が可能です。

2. 最適なシャッター速度の選択

シャッター速度ダイヤル上の 2 ～ 500 までの数字はそれぞれ 1/X を表わしています。シャッター速度はこの数値に設定し、中間値には設定できません。

●手持ち撮影

手ブレを避けるためにはなるべく早いシャッター速度を選んでください。手持ち撮影での限界シャッター速度は通常 1/30 秒程度ですが、1/60 や 1/125 などがより安全に手ブレを防ぐことができます。

不安定なポジションでの撮影には 1/125 秒か 1/250 秒をお勧めします。

●移動する被写体の撮影

動きがブレないように早いシャッター速度を選んでください。一般的な目安として、

- ・モータースポーツ／テニス／競馬／クロスカントリー ---1/500 秒
 - ・走り回る人物／自転車 ---1/250 ～ 1/125 秒
 - ・歩行者／立ち止まっている人 ---1/125 ～ 1/60 秒
- 以上を目安にしてください。

一般的に近距離での動きや視野を横切るような動きの被写体では、シャッター速度を速める必要があります。逆に遠方の被写体や、カメラに近付く、または遠ざかる動きの被写体では低速でも十分です。

●長時間露光

シャッターダイヤルの「B」設定を利用すると希望する長さの長時間露光を行うことができます。希望する露出時間だけシャッターボタンを押し続けます。

ボタンから指を離すとシャッターが閉じます。長時間露光を利用すれば光量が不足して露出計が使用できない場合も撮影を行うことができます。長時間露光ではカメラを三脚などに取付けて、ケーブルリリースなどの使用をお勧めします。

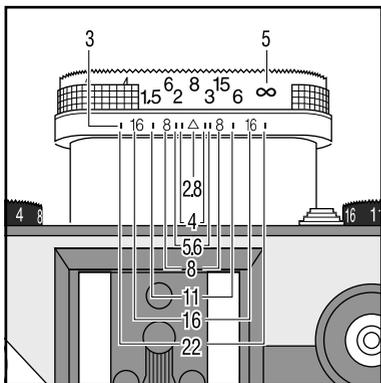
3. 絞り優先設定

被写体の種類によっては、絞りダイヤルまたはシャッター速度ダイヤルのいずれかを回して速光計の針に赤い指針を合わせることで適正露出を得ることができます。

動きのある被写体ではシャッター速度を優先して早いシャッター速度設定します。次に絞りダイヤルを回して露出を合わせます。

被写界深度が重要な場合は、必要な絞り値を優先して設定します。ここでシャッター速度ダイヤルを回して露出を合わせます。必要に応じて絞りダイヤルを使って微調整します。測光時、カメラは正確に被写体の方に向けてください。

4. 被写界深度



被写界深度の範囲は被写界深度スケールに示されています。中央の△を中心に左右に表示された絞り値の範囲が被写界深度となります。例えば被写体の距離が3mで絞り値がF11の場合、2～6mの範囲でピントを合わせることができます。

被写界深度は、特に被写体までの距離が急速に変化するスナップ写真やスポーツ写真、さらに遠近の差が大きいシーンなどの撮影で重要です。

このため、フォーカシングリング上ではよく使われる2～6mのスナップショットの設定が赤い色で表示されています。被写界深度が広がるF11付近では、2mにピントを合わせると約1.5～3mまで、6mでは約3m～∞ピントまでの合う範囲となります。

被写界深度表

単位: (m)

絞り 距離	2.8	3.5 (4)	5.6	8	11	16	22
∞	23 → ∞	18 → ∞	12 → ∞	8 → ∞	6 → ∞	4 → ∞	2.9 → ∞
6	4.8 → 8	4.5 → 9	4.0 → 13	3.5 → 23	3.0 → ∞	2.5 → ∞	2.0 → ∞
3	2.7 → 3.4	2.6 → 3.6	2.4 → 4.6	2.2 → 5.6	2.0 → 6	1.75 → 11	1.5 → ∞
2	1.85 → 2.18	1.8 → 2.2	1.7 → 2.4	1.6 → 2.6	1.5 → 3.0	1.35 → 3.7	1.2 → 6
1.5	1.42 → 1.60	1.4 → 1.62	1.34 → 1.71	1.28 → 1.8	1.20 → 2.0	1.12 → 2.3	1.01 → 3.0
1.2	1.15 → 1.26	1.13 → 1.28	1.10 → 1.33	1.06 → 1.39	1.01 → 1.5	0.95 → 1.65	0.83 → 2.0
1.0	0.96 → 1.04	0.95 → 1.05	0.93 → 1.09	0.90 → 1.13	0.87 → 1.19	0.82 → 1.30	0.76 → 1.45
0.9	0.87 → 0.93	0.86 → 0.94	0.84 → 0.97	0.82 → 1.00	0.79 → 1.05	0.75 → 1.12	0.71 → 1.25

5. 適正露出

基本的に測光値を読み取る時は常にカメラを被写体の方向に正確に向けることが重要です。例えば風景撮影の際は不注意からカメラを空に向けた場合、不適正な露出値が測光され、露出アンダーの原因となります。

測光機能は測光対象の被写体周辺を測定して平均値を算出します。

平均的なコントラストを備えた被写体の場合、自動的に適正露出が示されます。かなり輝度の高い範囲を撮影する場合でも以下の注意を守れば主の被写体にとって適正露出となるように測光することができます。

通常の場合：被写体が正面または特定の角度をもって側面から照らされている場合です。大きな影は生じず、明暗の範囲はバランスがとれています。(この正面からの照明はカラー撮影でもっとも豊かな色彩を生み出します) この場合視野全体が適正露出となります。

特殊なケース：主の被写体が背景に対して強度のコントラストを持っている場合です。例えば明るい雲を背景とした日焼けした顔のポートレートでは平均測光値は背景の空を基準としてしまいます。このような場合、主の被写体がファインダーのフレームに完全に収まるまで近付いて近接測光を行います。測光後に元の位置に戻って撮影します。

代理測光：上記のような近接測光が不可能な場合、同じような平均コントラストを持ち、同じ光のあたる被写体にカメラを向けて測光し露出値を読み取ります。

逆光撮影：逆光で撮影する場合レンズの絞りを1ステップ開けます。(例：F5.6であればF4に) リバーサルフィルムで撮影する場合、極端な輝度の差のある被写体は避けるようにします。影になった領域の近接測光を行うと日に当たった部分が露出オーバーとなり、スライドに投射すると明るすぎて色彩が乏しくなります。通常の撮影と同様に平均輝度の測光は、自然な色彩にもっとも近い部分に対して行います。

6. フィルム給送

フィルム巻き上げレバーは一回で巻上げなくても、小刻みに操作しても構いません。

7. バッテリーの交換

受光素子にはLR9 625電池1個を使用します。使用しない時はカメラをケースに入れておくことで電池の寿命を伸ばすことができます。また、長期間使用しない場合はカメラからバッテリーを外しておくことをお勧めします。使用済みのバッテリーは直ちにカメラから取り出して、各自治体の規則に従い、適切に処分して下さい。

※バッテリーは家庭ゴミと一緒に処分しないでください。

トラブルシューティング

症状	原因	対処方法
露出計の針が反応しない	▶ 優先設定した露出値が設定範囲外である ▶ 電池の電圧が下がったか、入っていない。または+の極性を間違っている	▶ 設定した露出値を変更する ▶ P6「バッテリーの挿入」を参照の上、電池を交換するか、正しく入れ直す
シャッターが切れない	▶ フィルム巻き上げレバーが完全に回っていない ▶ レンズの位置が正しくない	▶ フィルム巻き上げレバーを完全に回す ▶ ロックするまでレンズ位置を直す
フラッシュ撮影ができない、一部しか撮影されない	▶ フラッシュにおいてシャッター速度が早すぎる	▶ シャッター速度は1/30秒以下にする
一部が露出オーバーまたはアンダー	▶ 測光方法が過っている	▶ P14の「適正露出」をご参照ください
全体が露出オーバーまたはアンダー	▶ フィルムの感度設定が間違っている	▶ フィルムのISOを確認して正しいフィルム感度を設定する
フィルム全体が撮影されない	▶ 装填の失敗。またはフィルムが切れて空回りしている	▶ フィルムを正しく装填する。急がず一定の間隔でスムーズに巻き上げる。
画像が不鮮明	▶ 動きのある被写体でシャッター速度が遅すぎる ▶ 手持ち撮影による手ぶれ ▶ ピントが合っていない	▶ より早いシャッター速度を使用する ▶ カメラを固定するか、三脚を使用する ▶ ピント合わせを正確に行う
巻き戻しクラックが回らない	▶ フィルム装填の失敗 ▶ フィルムが切れている	▶ 正しくフィルムを装填する(P7参照) ▶ フィルムの切れた部分を取り出し、新しいフィルムを装填する
巻上げが非常に固い	▶ 撮影可能枚数を超えている	▶ 過度に力を加えず、少しずつフィルムを巻き戻し、改めて巻き上げレバーを操作する ▶ フィルムが切れている場合は速やかに新しいフィルムと交換する
写真の明部が色褪せ、ほとんど無色、暗部はディティールが出ない	▶ とくに逆光撮影において光のコントラストが過度である	▶ 写真の構図を変更する。 ▶ 極端に明るい場所、暗い場所を分けて撮影する。 ▶ 視点やカメラの位置を変える。 ▶ 朝や夕方の日を利用すると効果的

日本総代理店



KOMAMURA
CORPORATION

株式会社駒村商会

〒 103-0013

東京都中央区日本橋人形町 3-2-4 駒村ビル

TEL.03-3639-3351 FAX.03-3808-0115

www.rollei.jp